

2. 国体のイベント事業参加選手に対する調査結果（アンケート、ヒアリング調査）

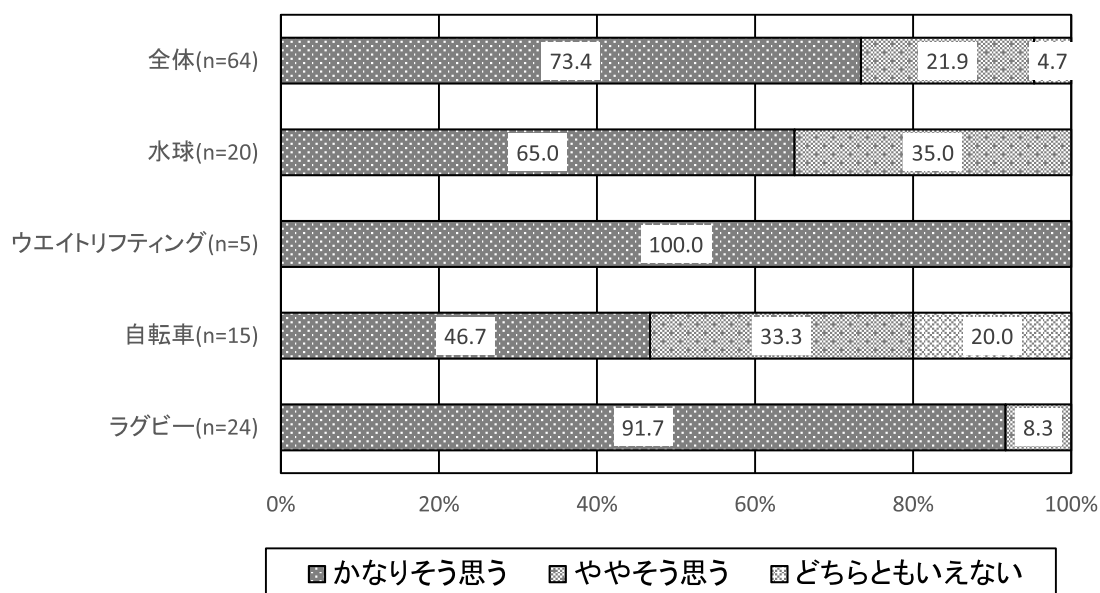
(1) 当該種目の国体への導入に対する意識について

① 当該種目の普及

当該種目を国体に導入することで、地域住民の認知度向上や競技を始める者の増加といった「普及」につながるか訊ねたところ、「かなりそう思う」73.4%、「ややそう思う」21.9%と全選手の約9割が普及につながるものと意識していることが明らかになった（図表13）。

種目別にみると、ラグビーフットボール（「かなりそう思う」91.7%）が最も高く、自転車（「かなりそう思う」46.7%）が比較的低かった。

図表13 国体への導入による当該種目の普及に対する期待感（全体、競技別）



<ヒアリング調査結果より関連するコメントの抜粋>

水球

- 学校現場において、授業の教材として扱っている。教材化に向けた支援が欲しい。
- 女子水球の普及、強化のためにはこのような機会が無いといけない。満足度は高い。
- 認知度が低い女子水球を見てもらえる機会があったのは良かったが、もっと多く（長く）ゲームをしたかった。

ボクシング

- 国体種目になることで、女子の競技人口は増えると思う。

レスリング ※イベント事業実施前のヒアリング結果より

- 国体に正式導入となれば、日本でもっと人気が出て競技人口が増えるかも知れない。何より、国体で初めてその競技を見た子どもたちが、興味を持って取り組んでくれれば、普及の大きな後押しになる。

ウエイトリフティング

- 普及に関しては数年前から行っており、女子の大会が増えていく中で国体にはまだ入っていなかったの、今がチャンスではないかと考える。
- 正式種目となることで競技人口が増えることに期待している。
- 普及が進めば強化もスムーズに取り組めるのではないかと考える。

自転車

- 国体では女子種目の実施がなかったため、魅せる競技として出してもらった。女子の競技人口も増えてきているので、国体の種目にしてもらえたら皆頑張ると思う。
- 自転車競技を知らない人たちがたくさんいるので、正式種目になれば多くの人に知ってもらえるので嬉しい。

ラグビーフットボール

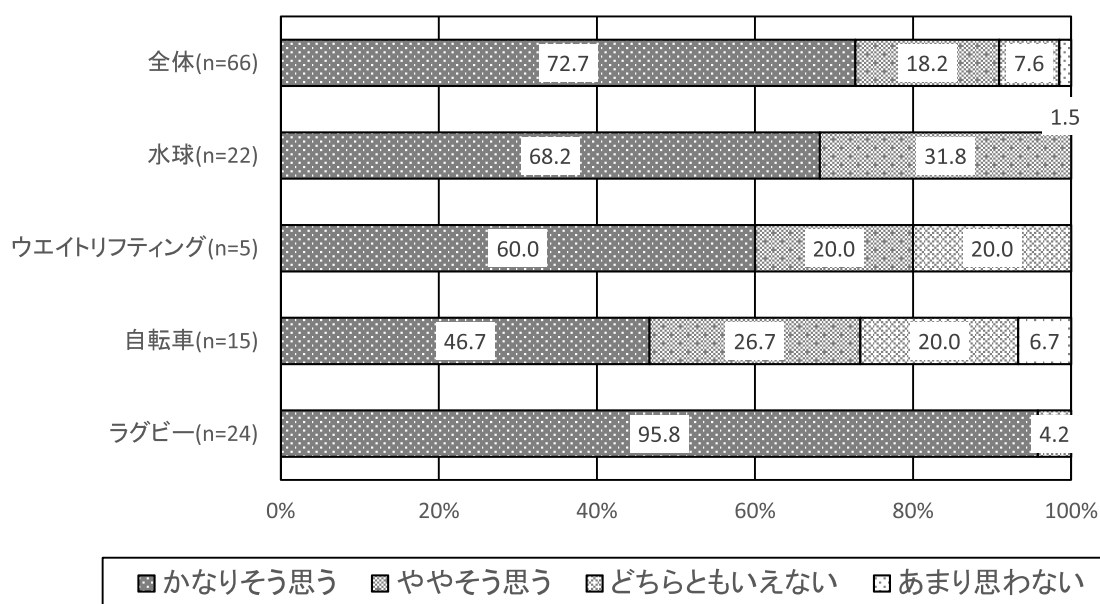
- （女子が）ラグビーフットボールをできる環境が少ないため、競技人口も増えないのだと考えられる。まず、ラグビーフットボールをしたことのない人たちのために環境づくりが大切だと思う。
- （国体・成年男子で行った）7人制は、観戦者にも分かりやすく、競技の魅力が伝わりやすいと考える。競技人口を上げるためにも7人制を継続するべきである。

②当該種目の強化

当該種目を国体に導入することで、選手の発掘から育成を含める将来的な当該種目の「強化」につながるか訊ねたところ、「かなりそう思う」72.7%、「ややそう思う」18.2%と全選手の約9割が強化につながるものと意識していることが明らかになった（図表14）。

種目別にみると、ラグビーフットボール（「かなりそう思う」95.8%）が最も高く、自転車（「かなりそう思う」46.7%）が比較的低かった。

図表 14 国体への導入による当該種目の強化に対する期待感（全体、競技別）



<ヒアリング調査結果より関連するコメントの抜粋>

水球

○女子代表チームが観衆の前でゲームをする機会は少ない。パフォーマンスが発揮できて大変満足している。

ボクシング

○国体種目になることで、女子の競技人口も増えると思う。

レスリング ※イベント事業実施前のヒアリング結果より

○選手たちも地域を代表して切磋琢磨するので、競技レベルの向上につながり、一層世界で戦う人材が増えてくるかもしれない。

ウェイトリフティング

○2012年ロンドンオリンピックでもメダルを獲得した実績があるので早く（正式種目として）スタートして選手の育成に努めたい。

○指導者の職場での環境（仕組み）を整えてほしい。教員であるため、試合に付き添ってあげられない等の問題がある。

自転車

○プロ（競輪）選手が国体に出場できるとすれば、競技レベルが上がり、皆が競り合い良いことだと思う。制限されることなく、競技レベルの高いところで競り合う価値が生まれる。

ラグビーフットボール

○女子の公式大会が増えるだけで強化につながる。

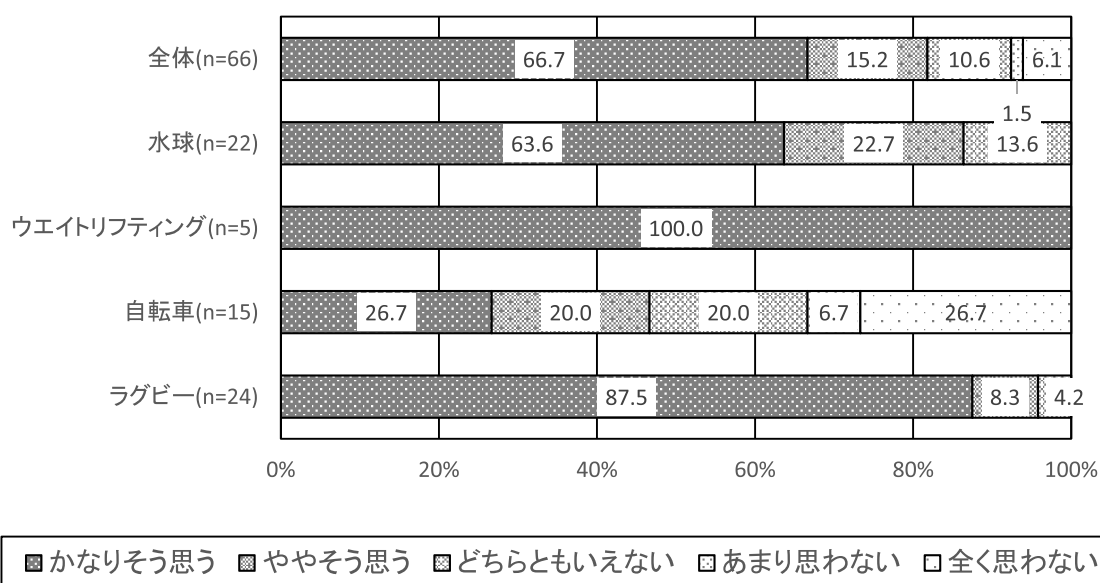
○国体に参加することを目指しつつ、2020年東京オリンピックを視野に入れて競技を続けたい。

③国体への参加意欲

当該種目が国体に正式種目として導入された場合、国体への出場を目指したいと思うか訊ねたところ、「かなりそう思う」66.7%、「ややそう思う」15.2%と全選手の約8割が参加意欲を示した（図表15）。

種目別にみると、ウェイトリフティング（「かなりそう思う」100.0%）が最も高く、自転車（「かなりそう思う」26.7%）が比較的低かった。自転車は、参加者の中にプロ（競輪）選手も含まれており、今後の国体参加の可否への認識が曖昧であることも推察される。

図表15 国体に対する参加意欲（全体、競技別）



<ヒアリング調査結果より関連するコメントの抜粋>

水球

- 国体は男子が参加する関係者のみの大会というイメージが強かったが、実際は県で対抗し、盛り上がっていることがわかりとても温かい印象を受けた。
- 県代表だからこそ学校単位よりも規模が大きいいため、代表選手としての意識が高まる。

ボクシング

- 国体という舞台で戦いたいと強く思っていた分、緊張してしまった。岩手国体からは階級が1つ上がるので、身体づくり（体幹トレーニングやウェイトトレーニングなど）をしっかりと行って優勝したい。
- 東京国体の際、男子の試合を観て自分もこの舞台に立ちたいと思っていた。（正式種目ではないが）この舞台で試合が出来てよかった。
- 女子の試合では地域住民の観戦者が少ないため全力で試合に臨めた。気持が大変盛り上がった。

レスリング ※イベント事業実施前のヒアリング結果より

○正式種目への導入は、レスリングに取り組む女子選手たちにとって、とても大きな朗報である。将来、正式種目となって参加資格ができれば、ぜひとも国体に参加して優勝したいと強く思う。

ウエイトリフティング

○高校生は年中大会があるため、若いうちはどんどん記録を伸ばして経験を積ませることが必要であり、国体は最も大きな場の1つとなる。
○有望選手であればいくつかの大会に絞ってコンディショニングを調整するため、国体は必ずその候補になる。

自転車

○国体に出たいと思う選手も増え、競技レベルが上がるのではないかと。
○プロ（競輪）選手のため、出場できない（制約がある）かも知れないことが気になる。

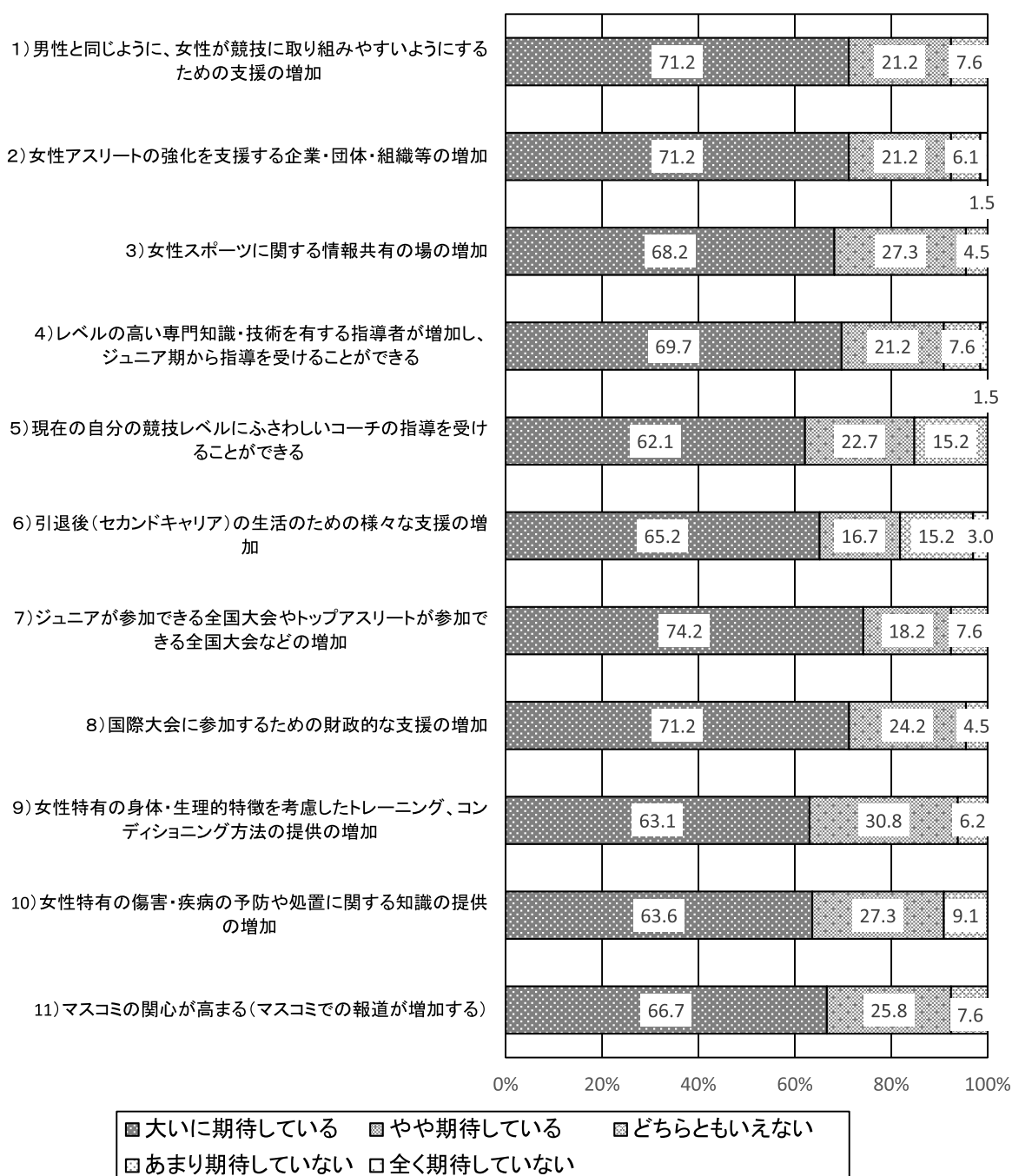
ラグビーフットボール

○国体という認知度の高い大会の中で、ラグビーフットボールができることに満足している。
○国内大会で地域の方が応援してくれることが少なかったため新鮮であった。
○関東では観戦者が少ないため、地元の方々からの応援はとてうれしい。

④国体の正式種目導入に対する期待感（要望）

当該種目が国体に正式種目として導入された場合、どのようなことを期待するか訊ねたところ、全体で最も期待感の高かった項目は、「ジュニアが参加できる全国大会やトップアスリートが参加できる全国大会の増加」（「大いに期待している」74.2%）であった（図表16）。次いで、「男性と同じように女性が競技に取り組みやすいようにするための支援の増加」「女性アスリートの強化を支援する企業・団体・組織の増加」「国際大会に参加するための財政的な支援の増加」（それぞれ「大いに期待している」71.2%）となっている。

図表 16 国体の正式種目導入に対する期待感（全体、競技別）



<ヒアリング調査結果より関連するコメントの抜粋>

水球

- 最も競技力が高まる時期（高校・大学卒業後）に、競技を続ける環境がない。実業団のように集中して練習できる環境が欲しい。国体への導入により、都道府県体育協会や都道府県競技団体、企業などが支援してくれるようになれば、強化に向け、また、数少ない選手たちが競技を続けられる環境が整うのではないかと感じる。
- アジア大会に向け強化を受けているが、金銭的な負担が大きい。スポンサーになる企業が現れると合宿開催・参加も可能となる。現在、1社に女子日本代表のスポンサーになってもらったが、国体に参加することで女子水球に対する認知度も全国で高まり、理解を得られ支援を考えていただける企業が増えるのではないかと感じる。

ボクシング

- 海外選手との対戦を視野に入れたときに自分のスキルが劣っていると感じるが、試合数が少ないので試合を増やしてほしい。次の試合にむけてパワーとスピードを鍛えるためにも国体といった国内における全国レベルの大会への出場は必要不可欠である。

レスリング ※イベント事業実施前のヒアリング結果より

- レスリングの大会は東京で行われることが多く、競技が盛んな地域も限定的である。日本中で親しまれるためには、多くの方がレスリングに触れられる機会をつくるのが大切である。

ウエイトリフティング

- 就職を考えたときに競技を視野に入れると継続して行っていくことが難しい。また、指導者を目指す場合も教員を目指しているケースが多く、競技の継続や指導する環境が限られている。国体への導入により、環境を整備する動きができることに期待している。

自転車

- 小さい頃から自転車競技をしている人が少ないため、高校生になってからではなく、小中学生の時から強化をしていけば世界に通用するようになるはず。

ラグビーフットボール

- 一般的に全国的な大会では、移動費がかさんでしまうが、国体は都道府県からの支援があるためありがたい。
- 15人制と7人制でプレーが違ってくるので、それを理解した指導をしてほしい。
- 7人制だと試合と試合の間隔が短いのでコンディショニングを整えてくれる環境の整備が望まれる。
- 仕事をしながら競技を続けていけるような環境（保証）がほしい。
- （大きな）大会の数を増やしてもらい、経験をつけていきたい。男子と比べても規模が少し小さい。